

<感想> UNESCO 本部では 2 つの課題に取り組みました。1 つ目は、最新の水問題に対する国際的なアプローチ方法について、分析してまとめること、2 つ目は西アフリカで行われる予定である水管理に関する案件のプロポーザルの修正でした。

具体的には、1 つ目の課題では 2012 年に行われる Rio+20 の会合に向けて、従来から水管理に使われている Integrated Water Resources Management (IWRM) というコンセプトと近年新しく提唱された the water, energy and food security nexus というコンセプトを比較し、その共通項および違いを分析するというものでした。2 つ目の課題は、西アフリカにおいて洪水対策の支援を行うという案件に対して、若干の修正を加え洪水対策にも有効であるようにプロポーザルを修正するというものでした。

こうした一連の研修を通して、最新の水管理に関する議論から、現在の国際社会が水をめぐる問題に対してどのように取り組もうとしているのかということを知ることができましたし、また西アフリカのプロジェクトから、UNESCO のような国際機関が支援を行う際、継続的に対象国と議論し、そのプロジェクトの結果を最大化するように協力機関を選びながら支援を行なっている様子的一端に触れることができました。

実際の国際機関でこのような経験を積めたことは大変貴重であり、この経験を生かして、より大きな視野で今後も水問題について、学んでいきたいと思えます。このような貴重な経験は京土会の支援無しでは成し得なかったものであり、このような貴重なご支援を頂いたことに深く感謝申し上げます。